



価値・意味・秩序

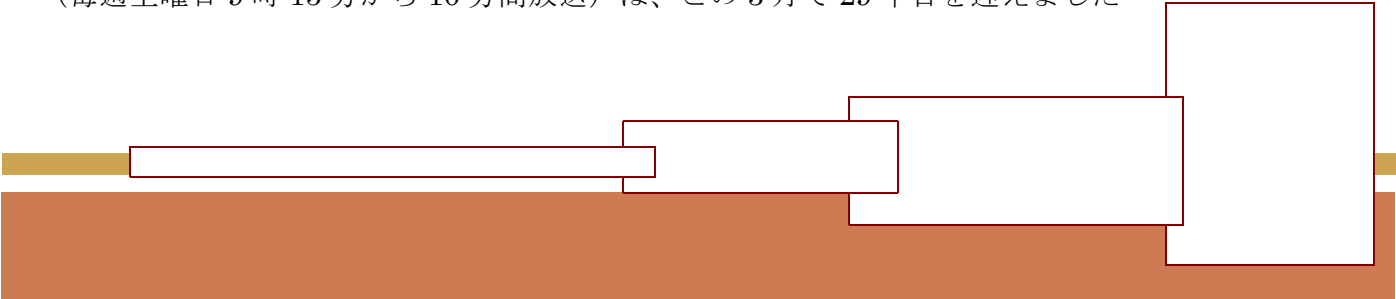
—ものごとの価値をよく理解した上で、自分なりに意味づけをし、
自分なりのルールを決め、高い志をもって主体的に学び続けよう—

学校法人有朋学園 有朋高等学院
理事長 特別講義資料

2015年5月29日(金)
14 : 30 ~ 15 : 20
3階講堂

学校法人 有朋学園
理事長 林 明夫

講師プロフィール

- ・ 開倫塾 塾長
 - ・ 宇都宮大学大学院工学研究科客員教授
 - ・ 作新学院大学客員教授
 - ・ 公益社団法人経済同友会幹事（東京）
 - ・ マニー株式会社（手術用縫合針製造、東証一部）顧問、元社外取締役（2004～2010年）
 - ・ 社会福祉法人両崖福祉会 特別養護老人ホーム清明苑 監事（足利市）
 - ・ 開倫ユネスコ協会会長
 - ・ CRT 栃木放送のラジオ番組「開倫塾の時間、林明夫の歩きながら考える」
（毎週土曜日 9時15分から10分間放送）は、この3月で29年目を迎えました
- 

お読みになりやすいように、QandAの形の資料といたします。御活用ください。

Q 1 : 学力とは何か。

A : 「学力」とは、「自覚をもって自分から進んで学ぶ力」、つまり「主体的に学ぶ力」と考えます。

Q 2 : 学力が身に着くとどうなるのですか。

A : (1) 「多様な選択肢のある人生を歩むこと」ができます。

(2) 「正常に機能する社会の形成に貢献すること」ができます。

Q 3 : 現代の社会はどのような社会ですか。そこで求められる基本的な能力とは何ですか。

A : (1) 「知識基盤社会 (knowledge Based Society ナレッジ・ベースト・ソサイアティ)」
… 「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」

(2) 「グローバル(Global)化社会」 … 「多様な集団で交流する能力」

(3) 「課題山積(さんせき)社会」 … 「自律的に活動する能力」

Q 4 : そのような基本的な能力の前提となる条件は何ですか。

A : (1) 「読書による思慮深さ」を身に着けていること… 「書き抜き読書ノート」を

(2) 「新聞を読んで自分で考える能力、批判的思考(Critical thinking クリティカル・シンキング)能力」を身に着けていること… 「スクラップブック」を

Q 5 : 学校の勉強は役に立つのですか。

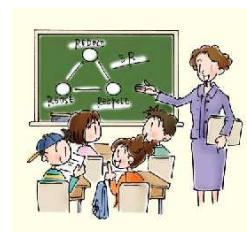
A : (1) 高校で学ぶ内容は、大学・短期大学・専門学校・社会での仕事や活動、よい人生を歩む上ですべて役に立ちます。役に立たないことは一つもありません。

(2) ですから、大事なことは、高校の教科書や教材、ノート、辞書、参考書は絶対に捨てることではありません。そして、一生にわたって身近に置き、折に触れて読み返すことです。

(3) 教養は高校で学んだことの上につくられます。すべての基本は高校で学ぶ内容です。

Q 6 : 効果の上がる学び方を教えてください。

A : 学習を①「理解」、②「定着」、③「応用」の3つの段階に分けて考えることをお勧めします。



Q 7 : 「理解」とは何ですか。

A : (1) 「理解」とは「うんなるほどとよくわかること」です。

(2) 予習や復習をしていて「理解」をするのに一番大切なのは、「辞書」と「用語集」、「参考書」です。

(3) 教科書を学んでいてよくわからない「語句」があったら、必ず「辞書」や「用語集」、「参考書」で調べる。調べたことは必ずノートに書き写すこと。書き写したことはその場で覚えてしまうこと。

(4) 数学や理科などの計算や問題はノートに必ず書き写し、自分の力でできるところまでやってみましょう。

(5) 「予習」とは、「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨む」ために行うものです。

(6) 自分でよく調べ、よく考え、それでもわからなかったら先生に遠慮なく質問しましょう。その結果は、ノートに書き残しておくこと。



Q 8 : ところで、ノートは取ったほうがよいのですか。

A : (1) 「授業の大切なところ」や「語句の意味」、「計算」や「問題」をノートに書くことは絶対に必要です。

(2) 「授業の大切なところ」を一冊のノートにまとめることができるのは、大切な「能力」の一つです。

(3) イギリスではノートを「notebook」と言い、一冊の本のように大切にしています。一生かけて自分のノートブックをつくり上げてくださいね。

Q 9 : 2番目の「定着」とは何ですか。

A : 「定着」とは「うんなるほどとよくわかったこと」つまり「理解」した内容を、「スミからスミまで身に着け、自分のものにする」ことです。

Q 10 : 「理解」したことを、どのように「スミからスミまで定着」させればよいのですか。

A : 「定着」のためには 3 つの練習が効果があります。私は、これを「定着のための 3 大練習」と名付けました。



Q11:「定着のための3大練習」とは何ですか。

A : (1)その第1は「音読練習」です。

- ・「スラスラとよく読めるようになるまで声を出して繰り返し読む練習をする」こと。これが「音読練習」です。

(2)その第2は「書き取り練習」です。

- ・「楷書(教科書の書体)で、書き順も含めて正確に書く練習をする」こと。これが「書き取り練習」です。
*英語は美しい筆記体で書く練習もしてくださいね。

(3)その第3は「計算・問題練習」です。(計算、ポチ、問題練習と読んでください)

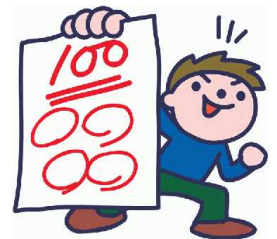
- ・「なぜそのような解答になるのかが「うんなるほど」とよく「理解」できた計算や問題は、その計算や問題を見た瞬間にパツ、パツ、パツと条件反射で答えが出るまでにする」こと。これが「計算・問題練習」です。

Q12:「定着のための3大練習」は効果があるのですか。

A : (1)「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾塾長 小泉信三先生の教えがあります。

(2)「定着のための3大練習は不可能を可能」にします。

(3)あらゆる試験でよい点数が取れますし、一度スミからスミまで覚えたことは一生忘れません。是非、実行してくださいね。



Q13:3番目の「応用」とは何ですか。

A : (1)「試験でよい点数、つまり、満点や合格点を取る」と「社会に出て役立つことができること」です。

(2)テストでよい点数を取るためには、そのテストで過去に出題された問題(これを「過去問(かもん)」と呼びます)や予想問題を5~6回分解くことが効果的です。

①そのときに大事なのが、一度やり終えた「過去問」と「予想問題」の「問題の本文」「設問」「選択肢」「解答」「解説」を学校の教科書を学ぶときや先生方の授業をお聴きするときの熱心さで一語一語正確に「理解」すること、「定着」を図ることです。

②よくわからない語句や内容は、辞書や用語集、参考書を用いて調べ尽くすことで「理解」に励むこと。「定着のための3大練習」に励むことです。

③これが、すべての試験で高得点を取り、また、試験問題を活用して学力を身に着ける最大のポイントです。

④自分で間違えた問題と正解を書き写す「間違いノート」、大切なポイントを自分でまとめる「まとめノート」なども極めて役に立ちます。どんどんつくって、繰り返し読み直し、

すみからすみまで身に着けてください。

- (3)「社会で役立つ」とときには、中学校や高校の教科書などが身近にあったほうが効果的です。絶対に処分しないでください。

Q14：高校時代に身に着けておいたほうがよいことは何ですか。

A：(1)「5S」

- ①「整理」(seiri) 不要なものを捨てる
- ②「清掃」(seisou) きれいに掃除をする
- ③「整頓」(seiton) すぐにサッと出せるように、同じところに置く
- ④「清潔」(seiketsu) ①～③を継続する
- ⑤「躰」(shituke) 自分から進んでやる、決めたことを守る



(2)別の意味の「躰」

- ①美しい立居振舞い
* After you お先にどうぞ

- ②敬語表現を含む言葉遣い

(3)元気なあいさつ(感謝のことばも)



Q15：最後に、好きなことばを紹介してください。

A：(1)「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)

(2)「持続する志」(大江健三郎先生)

(3)「離見の見(りけんのけん)」(世阿弥)

(4)「教育ある人とは学び続ける人」(ドラッカー先生)

(5)「健康第一(身体の健康、心の健康)」—お体を大切に—

—高校生は、自分自身にあまり厳しくしないこと、他人にもあまり厳しくしないこと—

以上

御清聴を感謝いたします。

*御質問や御意見がありましたら、自由に発言してください。